

2023年度 小規模多機能型居宅介護事業所どっこいしょ「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人ゆたか会	代表者	蓬莱和裕	法人・事業所の特徴	社会福祉法人ゆたか会は、障害者支援施設等を運営している法人でありどっこいしょが唯一の介護保険事業です。どっこいしょのある加西市西在田地区は、少子高齢化・人口減少が顕著な地域です。そのような地域で、独居の後期高齢者や認知症状態の高齢者の暮らしを支えるために、地域住民と協働して事業を実施しています。介護保険制度の対象者だけでなく、社会福祉法人として地域住民の誰もがサービスの対象者であるという考え方で運営しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所どっこいしょ	管理者	三好忠行		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民	地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	合計
	1	1	3	1	1	1			3	

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
① 職員一人一人の、 接遇やマナー、利用者へ関り方への評価	相手の立場に立ち、職員一人一人が自分自身の言動を見直す。そのため、OJT で学んだり職員間で意見交換できる機会をもつ。また、接遇に関するキーワードを唱和することで意識を高める	OJT で意見交換することはできた。接遇に関するキーワードの昭和については取り込むことができず、接遇面を意識して日常業務にあたることはなく、職員の個人の感情やその日の雰囲気や丁寧な言葉遣いや、良好なコミュニケーションが取れないこともあった。	<ul style="list-style-type: none"> 良い習慣を身に付けていくためにはマニュアルも必要 個別の状態の理解が必要 いろいろな方がいるので感情的になることもあるでしょうが、職員間で気軽に話し合うことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立つことを心掛けるために、定期的に振り返りの機会を持つ 丁寧な言葉遣いを心掛け、良好なコミュニケーションをとる 職員間で言葉の使い方を統一する 笑顔であることを基本とする 地域の人から見られているという認識を持つ
② 介護技術の向上等スキルの関する項目	介護の理念を見直す機会をもち、介護技術の研修を受ける等し技術の向上に努める。また、個別に必要な介助方法を職員間で共有し一人一人の利用者に合った介護を提供する。そして、利用している人がどっこいしょで楽しみながら体を動かし、心身の健康を維持できるような介護を実施していく。	全体的に介護技術は一定しており利用者の安全安楽は確保されている。しかし、加齢に伴う身体機能の低下や病気等で身体機能が急激に低下した時の個別の対応や、状態に合わせた姿勢の保持ができないことがある。介護の三原則である「生活の継続」「自己決定の尊重」「残存能力の活用」について学ぶことができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> どっこいしょに通いの利用で、話をよく聞いてもらっている。精神的なフォローをしてもらいたい 研修の機会を持ち、技術の維持をしていく必要がある どっこいしょではできても家ではできないことも多い。どうしたら家でもできるのか教えて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> 身体介護に関する研修（排泄・移乗・姿勢保持）を受講する 身体機能の回復・維持を目指し、スクワットなどの運動を毎日の生活の中で取り入れる 身体機能・認知機能の低下を受け止め、日々の変化に柔軟に対応する 日中活動で何をやるのかをカレンダーに書き、確実に取り組む 後期高齢者の身体機能や認知機能の低下について・最期どのように迎えるか・どのような介護をすれば本人や介護者が安楽で安心できるか、どっこいしょ便りで伝達する。

2023年度 小規模多機能型居宅介護事業所どっこいしょ「サービス評価」 総括表

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
③日中活動等事業所の業務に関する項目	利用者が「できない」と感じる人が多いと意欲低下につながる。できることの維持を念頭に置きながら体操等必要なリハビリを繰り返す。また、事業所内だけではなく、外食や楽しむための外出を企画し、積極的に外に出る機会を作る。事業所のレクリエーションは、予定を立てていないと実行できないこともあるので、レクリエーションカレンダーを作成し日中活動の充実を目指す。	看護師が中心になり夕方のエクササイズを行うことで、肩関節の可動域が広がったり、身体が動くようになった利用者が複数いる。また、レクリエーションカレンダーを作成し、毎日なんらかの活動に通いの利用者が参加することができた。外出も予定を立て、全利用者が外出・外食を楽しむことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーは見通しがたつので良い ・役割分担で利用者もできることを担ったら良い ・行事も大切 ・日ごろから避難訓練をすることで防災意識を高める取り組みが良い ・田舎なので、四季の景色が変わるのを、外に出て楽しんで欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動のカレンダーを継続し利用者の参加したい活動の機会を多く提供する ・してきたこと、できることの継続によりQOLの向上をする ・通院や買い物以外でも、外出を提案し楽しんで外出をする
④事業所の環境整備等ハード面に関する項目	日々の環境整備できていない点に関しては、月間予定表を作成し実施していく。庭の整備等は利用者の身体機能の維持や、QOL向上のための取り組みとして意識し実施していく。	月間予定表は作らなかった。衛生管理や環境整備について職員間で意識の共有ができておらず取り組みができていなかった。庭の整備は、1名整備を担当する職員の雇用と生活困窮者の就労支援事業の活用により年間を通して実施できた。	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃は必要だが最優先にすることではない ・以前よりきれいになっている ・効率も考えながら取り組んでもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃は役割分担を明確にし、月間予定表を作りルーチン業務として実施する。 ・果樹園に利用者が行けるように、腰掛の設置や道の整備を行う。
⑤利用者が地域で暮らし続けることの支援に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援に関する法制度に関する勉強会を行う ・地域に出かける機会を増やし、地域とのかかわりを続ける ・外出等の機会を増やし、これまで出かけてきたところに行けるよう支援する 	<p>地域包括ケアに関するOJTや認知症介護基礎研修の全員受講により学ぶことはできた。</p> <p>外出の機会や地域行事等の参加の機会は増えたが、長く自粛生活をしてきたため、利用者が地域行事に参加したいという意欲が低下した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各町で協力してもらって参加できるようにしてあげて欲しい ・どっこいしょの利用者が参加できるように町で協力する ・知っている人がいないと参加しにくい。参加しやすい環境を町と協力して創っていきましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人が地域とのつながりを切らずに暮らし続けるために必要な支援を考える ・積極的に外出し、どっこいしょと家の往復で暮らしが完結しないように意識する。 ・買い物や通院を続け、地域とのつながりを持ち続けられるような支援を行う。 ・地域行事には積極的に参加する。
⑥防災・災害対策に関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・法人のBCPの策定に合わせ、どっこいしょの防災マニュアルの見直しと職員の周知を行う ・土砂災害や地震を想定したリアルな避難訓練を行い、防災意識を高める ・独居の人や、常時介護が必要で介護者がいない人等、災害時にサービス提供が必ず必要な人への災害時の支援体制についてマニュアルを作成する 	BCPの作成をし、職員に周知を図った。訓練は机上訓練にとどまり、実際の災害や被害を想定した具体的な取り組みはできていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・町の自主防災と協働できるように話し合いましょう ・どっこいしょで防災のベースを作って、訓練を通して地域への理解へ向けて取り組んで欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの周知と活用について全職員で検討する。 ・ハザードマップを確認し災害に備え避難訓練を必ず実施する ・災害時の帰宅等利用者家族と話し合い個別に対応できるように個票を作成する。